桜土手古墳展示館平成 26 年度　秋季特別展

秦野の原像-Ⅸ　東田原中丸遺跡

平成 26 年 10 月 1 日(水)～11 月 30 日(日)

東田原中丸遺跡第遠景（公益財団法人かながわ考古学財団提供）

はじめに

東田原中丸遺跡からは、平成 12 年度に行なわれた発掘調査で中世前期（12 世紀末～13 世紀中ごろ）の館に関わると思われる遺構・遺物が検出されました。

特にまとまって出土した「白かわらけ」は、鎌倉地域（金沢地区を含む）以外の相模地域での希少な検出例となっており、当時の武家政治の中心地と深いつながりを持った在地領主の姿が浮かび上がってきました。

教育委員会では平成 13 年度から 20 年度まで同遺跡の中世遺構の範囲確認調査を行い、その結果を踏まえて平成 21 年度から 24 年度まで発掘調査を実施しました。その調査報告書が平成 26 年 3 月に刊行されたのを機に、これまでの 4 次にわたる調査で出土した遺物を展示します。

調査前史

東田原中丸遺跡についての記述として一番さかのぼると思われるものは、石野瑛（あきら）が『横浜貿易新報』（のちの『神奈川新聞』）大正 14（1925）年 4 月 23 日の「横須賀川﨑十一郡」に収録された「最近出土した資料（七）中郡各地から發見した遺物」と題する一文です。

地元の名望家であり、本町小学校の校長も務めた武新次郎の所有する考古資料を紹介した中で、「東秦野村田原なる金剛寺には源實朝の首塚と稱するものがあつて楠で造つた五輪塔が在るといふが、同氏は此處から出た直徑三寸一分の坏形の埴瓮を藏されて居る」と記されています。

武新次郎　『秦野名鑑』より

この文章は、若干の字句の修正のうえ「東秦野村道永塚出土の直刀」として翌年 4 月に坂本書店から発行された『武相考古』という単行本に収録されています。

「埴瓮（はにべ）」とは素焼きの器のことで、径 9.4 センチ程度の「かわらけ」、あるいは土師器の坏の事かと考えられますが、出土状態についての記述はなく、一定の広がりを持つ遺跡として認識されるようになるのは、ずっと後の事となります。

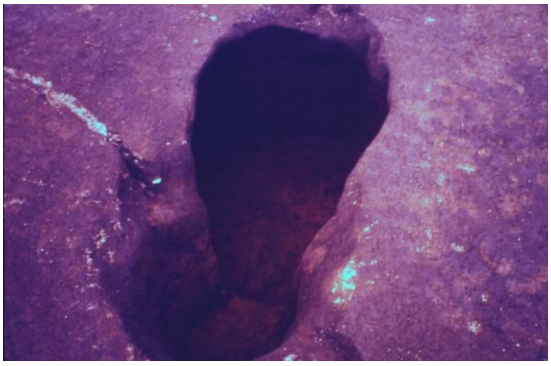
昭和 40（1975）年に安本利正氏、柳川定春両氏によって作成、『秦野の文化財』第 1 集に掲載された「秦野市内縄文時代遺跡遺物地名表」にも記述は見られ、縄文前期から中期にかけての土器片と土師器がわずかに採集されたとあります。

第一次調査

この遺跡に初めて発掘調査が行われたのは、昭和 58（1983）年の事でした。農地改良事業に伴って実施されたこの調査では、秦野盆地内では初となる、古墳時代前期の集落址が検出され、古式の土師器が多く出土したことで注目を集めました。

第一次調査　第 15 号住居跡　（古墳時代前期）

また、国産陶磁器の(常滑産、瀬戸美濃産)の出土、地下式壙、掘立柱建物、竪穴状遺構等の発見により、中世集落と墓域が確認されています。



第一次調査　第６号地下式壙（中世）

第二次調査

第二次調査は、平成 12（2000）年 9 月から 10 月にかけて、中丸広場造成事業に伴う緊急調査として実施されました。

この調査では、一次調査同様、古墳時代前期の集落も検出されましたが、特筆すべきものとしては段切遺構、掘立柱建物、柵列などの遺構群が発見されています。

第二次調査区全景

これらの遺構群にともなって中世前期の所産と見られる、かわらけ、白かわらけ、貿易陶器(青磁、白磁)、国産陶磁器（渥美産、常滑産など）、瓦質土器、土鍋などが出土しており、中世前期在地領主である波多野氏一族の関連施設であると推定されています。

第二次調査出土「白かわらけ」

第三･四次調査

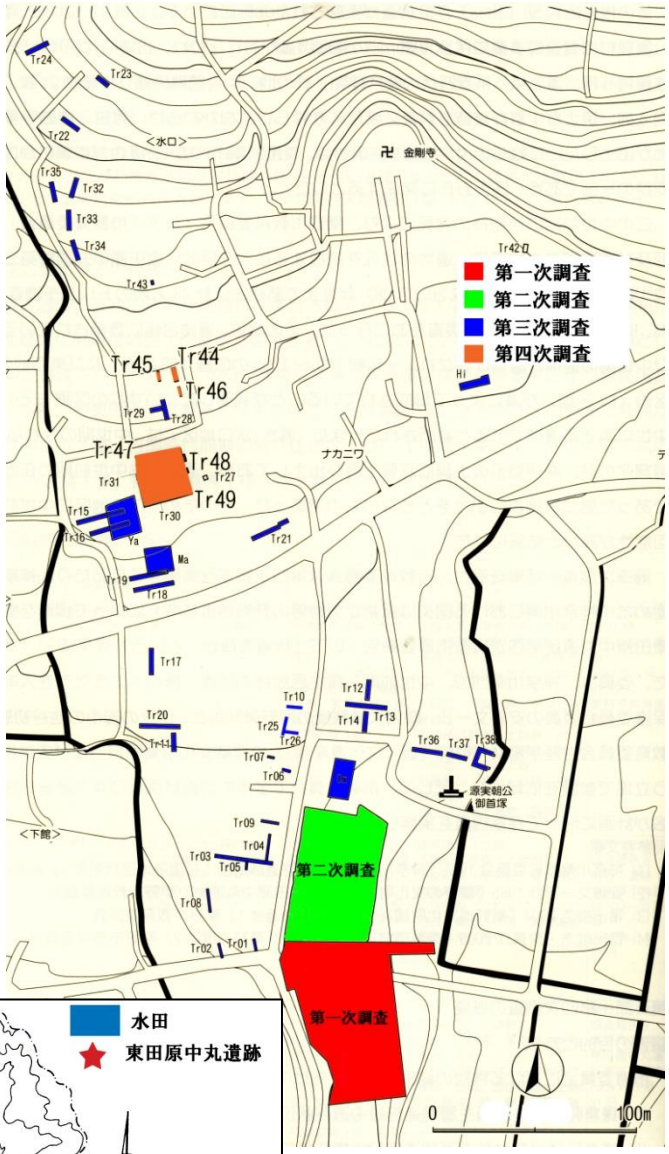
第三次調査は、平成 13 年度から 20 年度にかけて中世の館跡の範囲を確認するために実施された学術調査で、第二次調査時点と異なる地点からも掘立柱建物、段切遺構、竪穴状遺構、柵列などが発見され、かわらけ、白かわらけ、貿易陶器(青磁、白磁)、国産陶磁器(渥美産、常滑産、瀬戸美濃産、山茶碗)、瓦質土器、土鍋、石鍋など、が出土し、中世領主層の関連施設がより広い範囲に所在することが判明しました。

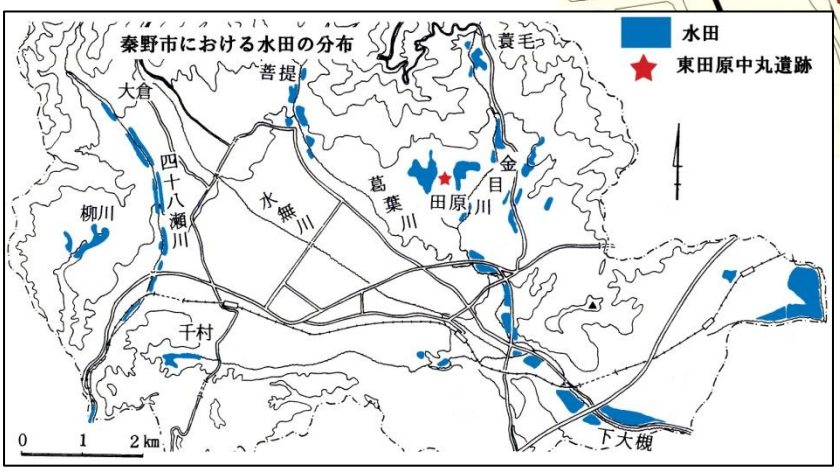
第四次調査は平成 21 年度から平成 24 年度にかけて行われた調査で、第三次調査に引き範囲の確認を行うとともに、文化財としての本質的な価値及びそれを構成する要素を明確にする情報収集を行うための学術調査で、出土遺物は僅少であったものの、掘立柱建物、竪穴状遺構、地下式壙、整地遺構などが確認されました。

おわりに

東田原中丸遺跡周辺は、秦野盆地内でも水田が広く営まれている箇所であり、金目川沿いに盆地外部との交通も比較的容易な場所であると考えられます。古墳時代前期の集落はまさにこうした背景によって営まれたのでしょうし、中世の在地領主がこの周辺に居を構えたのも、地理的条件によるところが大きかったのではないでしょうか。

私達の生活が、地形や環境に大きく左右されるものであることを、この遺跡は雄弁に語っているのです。





秦野の原像-Ⅸ　東田原中丸遺跡
発行　平成 26 年 10 月1日
編集　秦野市立桜土手古墳展示館

〒259-1304 神奈川県秦野市 380－3
Tel. 0463－87－5542
FAX 0463－87－5794